

新聞の中の外来語

33期生

I テーマ設定の理由

去年も同じ題名で研究したが、今回は、昨年と違うものを詳しく調べようと思い、決定した。

とはいうものの、実は、昨年の発表の時、「来年も迷わずこれを」と言ってしまったために決まったようなものだ。しかし、いざやり始めてみるとよかった。案外、この方がよかったのかもしれない、と今では思っている。

II 研究方法

(1) 今回は、今年の朝日・サンケイ新聞(7月14日~16日)と、データとして、昨年の朝日新聞を使用し、それらを分析。

※サンケイ新聞をあえて選んだのは、朝日新聞に比べて、一般的また庶民的で、歴史が浅いため、それが違いに出てくるのか、を見たかったからである。

①整理して、朝日とサンケイの数の比較。

②出てくる言葉とその頻度。

③語源国の割合。

④借入時代の割合。

(2) 和製洋語について

・どのような言葉があるのか

・原語が一部略されているのもみてる など。

III 研究結果

(1) ①朝日とサンケイの数の比較

下表を見て欲しい。これは、朝日・サンケイ新聞に出てきた外来語の行別個数と総計である。

行	ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ	計
サンケイ	83	109	135	96	22	208	64	9	70	7	803
朝日	88	110	142	88	16	218	48	13	66	5	794

見て分るとおり、サンケイの方が朝日を少し上回った。予想としては、サンケイの方が、読者にわかりやすくするため、少ないと思っていたが、案外多く、予想を裏切った結果となった。

昨年の総計は1426個だったが、このデータは7日分。今年はそれぞれ3日間。朝日とサンケイを合わせて、6日分なのに、1597個で、昨年を抜く。今年は比較的多く使われた、ということになり、これは、日本語の中に占める外来語の割合が昨年より高くなったことを示す。

行で見ると、サ行、タ行、ハ行が多かったが、これは、英語の辞書の「S」、「T」、「H」の各項が多いことと関連しているのではないか、と思う。

②出てくる言葉とその頻度

サンケイ、朝日、昨年の朝日のベスト5を書き表してみる(数字は個数)。

	サンケイ	朝日	昨年の朝日
1位	メートル ; 85	メートル ; 113	キロ ; 78
2	エネルギー ; 63	キロ ; 63	エネルギー ; 59
3	センター ; 49	クーデター ; 50	メートル ; 58
4	リーグ ; 39	メーカー ; 47	チーム ; 46
5	グループ ; 29	リーグ ; 46	リーグ ; 45

※昨年の朝日のデータは7月14日~16日の出てきた回数である。

この表から、頻度数の高いものの中でも2種類に分けられることが分った。

1つというのは、「メートル」「キロ」「リーグ」などのようなもの。これらは、3紙のベスト5にも入っていて、大体どこをとってもよくある、安定した勢力。もう1つの方として、全くそれと反対に、不安定なもの。「クーデター」がそうである。これは、たまたま朝日が特集などで、その記事があったためベスト5の中にはいった。ちなみに、サンケイでは8個、昨年の朝日では2個であった。

③語源国の割合

今回も昨年と同じように調べたが、今回は、「和製洋語」の欄を設けた。

語源の原語	サンケイ	朝日	去年の朝日
英語	87.4	87.0	95.9
仏語	2.0	3.4	1.4
独語	1.9	1.3	1.1
蘭語	1.2	1.3	0.1
伊語	0.6	0.5	0.3
その他	2.8	1.5	1.2
和製	4.1	5.0	

仏…フランス
独…ドイツ
蘭…オランダ
伊…イタリア
和製…和製洋語

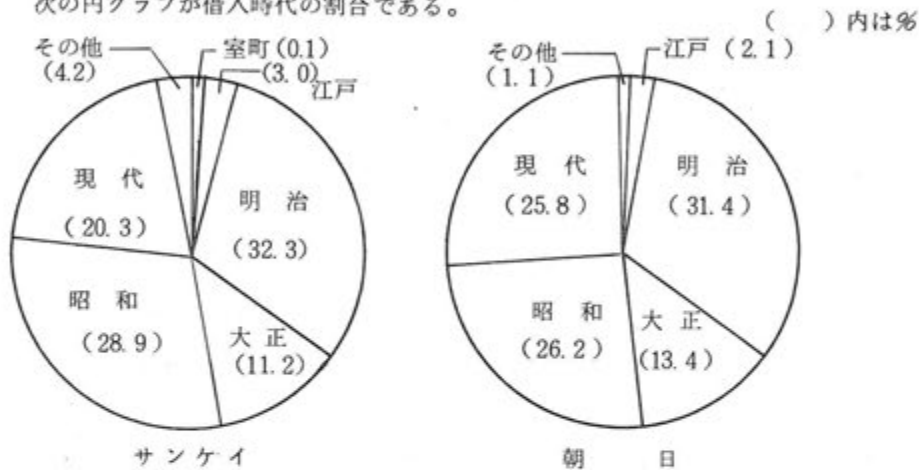
※昨年の朝日の和製洋語は調べられなかった。

まだ英語が強いが、仏語・独語・蘭語などの、英語以外の原語が伸び始めている。また、今年初めて和製洋語を調べたがこれは後ほど詳しく書く。

仏・独語などが伸びている原因として、ファッション・料理関係からの進出が大きかったからではないか、と思う。

④借入時代の割合

そもそも借入時代とは、その言葉が何時代に日本に入ったかを表すものである。次の円グラフが借入時代の割合である。



※昭和…昭和元年～終戦まで 現代…終戦～今日まで

借入時代の割合が多いのは、時代の期間が長かったものである。だから、明治・昭和・現代が多く、大正が少なくなっている。しかし、江戸時代は別で、外交が開かれるのが遅かったため、割合が小さくなっている。

〔2〕和製洋語について

・和製洋語とは？

外来語2つを日本人が重ねて作った複合語のことをいう。

・和製洋語の例 ()内は英語での本当の言い方

- ・キャッチボール → catch + ball (play catch)
- ・テレビドラマ → television + drama (teleplay)
- ・ゴムボート → gum + boat (rubber boat)
- ・フランスパン → France + pain (French bread)
- ・バトンタッチ → baton + touch (baton pass)
- ・ナイト → night + er (night game)

中でも特殊なのは、「ゴロ」。この言葉はどのように出来たのかははっきりしていない。ゴロゴロ転がるからか、グラウンダーの詛りか、といわれているが……。

完全な和製洋語ではないが、原語の一部を省略してカタカナになっている言葉も少なくない。その割合は、

サンケイ 7.3% 朝日 9.6%

と高いのである。その略され方を見ると、

- ①最初の2～4文字だけをとる。
- ②ingや複数形の-s・edをとっている。
- ③頭文字をとる。

などいろいろな種類がある。例を挙げてみると、

- ・フライパン → frying pan
- ・コンデンスミルク → condensed milk
- ・P.T.A. → Parent-Teacher Association
- ・テレビ → television
- ・ハンスト → hunger strike

この他にも、いろいろな言葉が省略されていた。

(スーパー、ビル、デパート、イラスト、ジャッジ、etc)

IV 結論

- (1)今年より昨年より外来語の数が増えた。
- (2)1番最初の文字が多かったのは、サ行・タ行・ハ行であった。
- (3)頻度の高かったのは、「メートル」「キロ」「エネルギー」などであった。
- (4)頻度の高かったものでも、安定しているものもあれば、不安定なものもあった。
- (5)語源の原語は英語が最も多かったが、フランス・ドイツ語も伸び始めていることが分かった。
- (6)借入時代は、時代の期間の長い、明治・昭和・現代が大きい割合を示した。
- (7)和製洋語は、予想外に大きな割合となった。
- (8)原語の一部が省略されている言葉は、意外に多くあった。

V 総括

自分では、まあまあ納得できる内容だった。自分の考えも出たつもりでいる。また、「外来語ってどんなもの？」と聞かれても、明確ではないが、答えられるのではないかと、思っている。

日常生活になお入っていき、とけ込んでいく外来語。その外来語をこれからも見つけ、学んでいきたい、と思っている。

●参考文献

- ・コンサイス外来語辞典 三省堂